

「血まめ」は、どうしてできるの

「血まめ」は、皮膚の表面近くにできた小さな出血

「血まめ」は、皮膚の表面近い部分に見られる、赤むらさき色の小さい豆くらいの大きさの点状の出血です。手足の指、手のひら、足の裏などが、何かではさまれるなど強く圧ぱくされたときに、皮膚の中に小さな出血がおこるためにできます。

血まめには、指をはさんだり、鉄棒や野球のバットやテニスのラケットなどを、強くにぎってをしたときの手の血まめ、くつずれの足の血まめなどがあります。

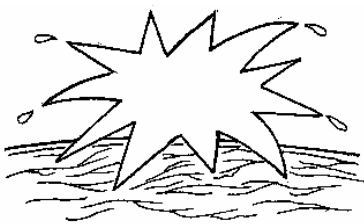
血まめの手当ては

簡単な軽い場合には、特に治りょうの必要はなく、血液は自然に吸収されて消えてしまうため、そのままでもいいのですが、気持ちがよければ冷やしてもよいでしょう。

しかし、程度によっては、化のうしないように、抗生物質のぬり薬をつけて、ガーゼなどで保護しておかなければならない場合もありますので、注意しましょう。

また、血まめのできる原因が思いあたらないのに、血まめがくり返してできるようなら、他の病気の場合も考えられますので、病院で診察や検査をしてもらう必要があります。

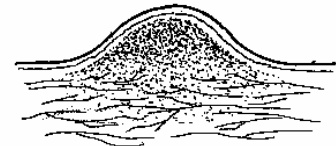
(監修・保志 宏)



皮膚を強くはさまれる



血管がやぶれて血が出る



血まめができる

